

事業者等向け 令和7年度放課後課後等デイサービス評価表

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	1	3	1	・設置基準以上の広いスペースを確保しており、運動授業内容に沿いながら器具の設置を行っているがその日の利用児童の状況によっては狭く感じることもある。その為、活動内容によって立ち位置など工夫して安全に活動が出来るよう努めている。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	4	1		・設置基準に基づき、不足なく配置をしている。日々の活動における職員の配置について、役割分担を決めた上で安全への配慮をしながら支援に当たっている。定期的に社内研修を実施しており、また外部研修で取り入れた内容を全職員で共有し、職員全体で専門性の向上を行っている。また日々のミーティングで利用児童の特性を踏まえた対応を話し合い成功体験が詰めるよう努めている。
適切な 支援の 提供	3 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>放課後等デイサービス計画</u> *1が作成されているか	5			・利用者の発達特性を専門的見地に基づき客観的に分析し、最適となる指導方法を常に研究している。また、利用者のニーズについては保護者と定期面談し、個別支援計画を立て、定期的なモニタリングと合わせての計画の見直しを適時行っている。日々の利用者情報については職員全体で共有し、支援会議を踏まえて作成がされている。また状況によっては面談に児童も参加し、支援計画を作成している。
	4 運動プログラムが固定化しないようバリエーションを付けた工夫がなされているか	4	1		・予め年間計画を立てており、月ごとに運動プログラム内容を変えている。また、プログラムごとに目標値を定め、目標達成に向けた指導案をそれぞれ計画を立てながら行っている。運動プログラムの内容については、同じ種目であっても内容を変更したり細分化する等で利用者に合わせた対応がなされているが小学校の年間指導計画に基づいて作成している為、固定になってしまっている月があるが内容を変更・工夫し、提供している。
保護者 への 説明等	5 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	5			・体験説明会を個別で随時開催しており、参加者へ支援内容や利用負担額についての説明を行っており契約時にも、契約内容に沿って説明をしている。また毎月、利用者全体にLINEでその月の授業内容を発信している。日々の活動の様子や今後の課題についてはお迎え・送迎時に連絡帳・LINEなど様々な方法で支援内容を説明できていると考えられる。
	6 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができてきているか	5			・お迎え・送迎時に口頭、連絡帳、電話、LINE、等の手段を用いて、その日の利用者の活動内容・様子・発達状況について伝えており、情報の共有を実施している。また、保護者からの子どもの相談についても、手法やタイミングを問わず随時受け付けており、状況や課題についての共通理解が行われている。また職員間でも保護者からの情報の共有もされている。
	7 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	5			・半年に一回以上の定期面談の他、保護者からの申し出による面談または立ち話による対面対応や電話対応やLINE対応を随時実施しており、そこで得られた情報を基に助言を都度行っている。保護者の困りごとにも寄り添って改善できるよう支援されている。
	8 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	5			・申し出を受けた苦情内容については早急に内容を問わず職員全体での共有・事実確認し、苦情解決に向けて管理者や児童指導員が一丸となり迅速な対応を回っている。
	9 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	5			・お迎え・面談・電話・LINEを通して保護者と十分にやり取りが出来ると思う。また利用者の家庭事情に配慮し、日々の情報や出来事共有について、伝達媒体を慎重に選定しながら行っている。
	10 個人情報に十分注意しているか	5			・個人情報鍵付き書庫にて保管し、インターネット上のデータの取り扱いにおいても漏洩しないように厳重に管理をしている。また個人情報を破棄する際はシュレッダーにかけ破棄されている。
11 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	5			・毎年の訓練時期を予め定めており、法令に定められた研修・訓練を実施している。	
満足度	12 子どもの <u>社会性</u> *2と <u>コミュニケーション力</u> *3は向上したか	4	1		・集団活動を中心とする中で、社会性とコミュニケーション能力の向上を図るべく、プログラムの提供と併せながら、利用者の日々の教室内での行動や発言といった面でも、指導員が介入しながら都度支援を行っている。
	13 子どもの運動能力・ <u>協応動作</u> *4は向上したか	4	1		・運動授業の内容について、目的と成果を明確にし、指導内容を細分化して成功体験を積みながら運動能力と協応動作の向上が図れるように工夫を行っている。個人それぞれが課題としている運動機能の向上は、成長速度に個人差はあるがほぼ全ての子どもたちに見られている。また子ども同士で声を掛け合い手助けやアドバイスする場面が増えた。また難しい児童は個別で練習などして大きな遅れがないよう配慮している。
	14 子どもの <u>視覚認知機能</u> *5は向上・改善したか	4	1		・視覚覚トレーニングを中心に、眼球運動の強化を図っている。プログラム内容については毎月更新がなされており、利用者に対して常に工夫された課題を提供しているため、視覚認知機能の向上が行われている。直写・視写の活動については、視覚的な成果が見れることで子どもたちのモチベーションアップにもつながっている。ただ個人差があり課題内容によっては難しい児童もいる為、個別で対応し、機能向上を図っている。
	15 子どもは通所を楽しみにしているか		5		・利用者が楽しく通所ができるように、運動や座学を通じて成功体験を積み、次回の来所を促進できるようなプログラムの提供を行うことで、大半の児童達や保護者から「すきっふか楽しい」といった声を聞くことができています。ただし、行き渋る利用者もおり、その場合は個別対応をしながらより成功体験が積める支援体制を目指して改善に当たっている。
	16 事業所の支援に満足しているか	4	1		・活動内容の成果を、保護者へ口頭や動画で直接的に伝える事で、児童の成長を実感いただいている。保護者としても児童としても、当事業所を必要として頂いている声を日々受けており、成果を出し続けることで今後も利用者の期待に応えていきたい。